

第2学年 美術科学習指導案

日 時 平成24年11月8日（木） 4校時

学 級 2年4組（男子18名 女子19名 計37名）

授業者 教諭 平船 大輔

1 題材名 「生活と美術のかかわり」（鑑賞）

2 題材について

(1) 教材について

中学校学習指導要領の第2学年鑑賞における目標と内容に、「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。」「美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。」とある。

第2学年及び第3学年では、自然や美術作品、文化遺産などの鑑賞を通して、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を広げ、第1学年で学んだことを基に、美意識を高め、生活を美しく豊かにする美術の働きや、美術や文化に対する理解を深めることなどをねらいとしている。対象の形や色彩などの特徴や印象などから内面や全体の感じ、価値や情緒などを感じ取り、外形には見えない本質的なよさや美しさなどもとらえようとするのが大切である。また、作品を通して作者の心情や創造性を感じ取り理解することも重要であり、作品を深く味わい作者の内面や生き方を推し量ったり作品の構成や表現方法などを研究したりするなどして、そのよさを感じ取ったりすることを目指したい。

学校や家庭、地域社会を心安らぐ場にするためには、造形的な環境を美しく心地よいものにすることが重要である。人間は、形、色彩、材料、光、空間などにより、明るい開放感や落ち着いた雰囲気、心が躍るような楽しさなどを感じ取ることができる。また、自然や、やさしさのある環境は、精神的な温かみやくつろぎを与えてくれる。このような造形や美術の働きに気付きそれを豊かに感じ取ろうとし、形や色彩、材料などの造形が人間にとってどのように機能するかを再認識することが重要であると考えられる。

(2) 生徒について

事前に2年4組の生徒から鑑賞の学習に関するアンケートを実施したところ、鑑賞の授業が「好き」と答えた生徒は15人であった。その理由は、他の人の作品を見るのが楽しい・おもしろい、他の人の作品から学ぶことができる、他の人の作品のよいところを取り入れることができる、などであった。「嫌い」と答えた生徒の理由は、つまらない、楽しくない、感想を書くのが難しく思い浮かばない、美術が嫌い、など

であった。このことから、鑑賞とは友達同士の作品鑑賞会をイメージして答えていることがわかる。

また、美術館・博物館や造形美術展など学校以外で作品鑑賞を経験したことがある生徒は8人という結果であり、ほとんどが鑑賞の授業が「好き」と答えた生徒であった。このことから、鑑賞の授業が「嫌い」と答えた生徒は、「好き」と答えた生徒より作品鑑賞の経験が少ないと思われる。

本時で学習する『パブリックアート』についてもいくつか聞いてみたところ、『パブリックアート』を「知っている」「聞いたことがある」と答えた生徒は、1人もいなかった。しかし、生活の中で身の回りのものを見て、美しい・きれい・すごいと感じたことがある生徒は22人と多く、生徒は作品鑑賞の経験は少なくても、身の回りの生き物や自然物、自然現象や風景、建造物や街並みなどには目を向けており、環境の中に見られる造形的な美しさを感じているのがわかる。本時では、鑑賞とは美術作品だけではなく、身の回りの環境を美しさや自然との調和の視点からとらえ、生活を心豊かにする造形や美術の働きを学ぶことでもあることに気付かせたい。

(3) 指導について

自分の感じたことや作品についての自分の考えを、根拠を明らかにして述べたり批評したりすることは美術の鑑賞において大切な学習である。また、自分の価値意識をもって批評するためには、自分の中に対象に対する価値を明確にもつことが前提となる。単に知識や作品の価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら自分の中に作品に対する新しい価値をつくりだす学習であるととらえたい。指導にあたっては、生徒それぞれに異なった見方や感じ方を尊重する雰囲気をつくるとともに、作品に対する生徒の興味・関心をより高めたり、いくつかの鑑賞に視点を設定したりしながら、できるだけ生徒自身の目や手、心や知で作品のよさや美しさを発見し鑑賞を深めさせていきたい。

3 題材の指導・評価計画（1時間）

時	学習内容	学習目標	評価規準	評価方法
1	・『クラウド・ゲート』の図版を鑑賞する。	・作品のあるその場にいたらどのような気持ちになるのか考えることができる。	・環境の中に見られる造形的な美しさなどに関心を持ち、主体的に生活を豊かに美しくする美術の働きについて理解しようとしている。 (関心・意欲・態度)	・観察 ・発問への答え
	・身の回りのパブリックアートを鑑賞する。	・作品の造形的なよさや美しさ、作者の意図、生活の中の美術の働きなどについて考えることができる。	・環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、生活を豊かに美しくする美術の働きについて理解している。(鑑賞の能力)	・観察 ・発問への答え ・学習プリント

4 本時の指導

(1) 目標

作品の鑑賞を通して、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、生活を豊かに美しくする美術の働きについて理解することができる。

(2) 評価規準

- ① 環境の中に見られる造形的な美しさなどに関心をもち、主体的に生活を豊かに美しくする美術の働きについて理解しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ② 環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、生活を豊かに美しくする美術の働きについて理解している。(鑑賞の能力)

(3) 本時の展開 (評価の○は本時の目標に関わる評価、●はその他の評価)

段階	学習活動	形態	指導上の工夫及び留意点	評価(観点、方法等)
導入 15分	1 スプーンに自分の姿や風景を映し、そのおもしろさを味わう。	一斉	・全員に体験させ、歪んで見える風景や自分の姿を見て、純粹に感じたことを発表させる。	●積極的に発言しているか。(観察)
	2 「クラウド・ゲート」の図版を鑑賞する。	一斉	・作品のあるその場にいたらどのような気持ちになるか考え、発表させる。 ・作品を離れて見たときの造形美や、公共空間と一体化した様子と、作品の真下に入って上を見上げたときに受ける感じなどの視点を与え、考えやすくさせる。	○評価規準① 主体的に考え、発表しているか。(観察・学習プリント)
	3 いくつかのパブリックアートを鑑賞する。	一斉	・パブリックアートとはどういうものかを説明し、身の回りに目を向けさせる。	
展開	4 本時の学習課題を確認する。			
	身の回りにあるパブリックアートを鑑賞し、自分の考えを発表しよう			
	5 身の回りのパブリックアートについて鑑賞し、レポートを作成する。	グループ	・グループごとに、Uドーム前の作品についてのレポートを作成させる。 ・作品の形や素材、色彩など観点を示しながら、	○評価規準② Uドーム前の作品から、造形的な美しさを感じ取ることができているか。(観察)

展 開			作品の造形的なよさや美しさ、作者の意図、生活の中の美術の働きについて考えさせる。	・学習プリント)
	言語活動：作品の造形的なよさや美しさ、作者の意図、生活の中の美術の働きについて、自分の考えを発表する。活動⑥			
25 分	6 グループごとに鑑賞したことについて、発表する。	一斉	・グループでまとめる形にするのではなく、気付いたこと感じたことを全て発表させるようにする。	
終 結 10 分	7 グループの発表を聞き、自分の見方も取り入れて感想を書く。	個人	・形や色彩、材料などから受ける感じを基にして、自分の考えと友達の考えを比べさせる。	○評価規準② 生活を豊かに美しくする美術の働きについて理解しているか。(観察・学習プリント)